

宇都宮市市場事業経営戦略

団 体 名 : 宇都宮市

事 業 名 : 市場事業

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 3 年度 ~ 令和 12 年度

1. 事業概要

(1) 事業形態

| | | | |
|----------------------------|--------------|-----------|------------|
| 法適(全部適用・一部適用) 非 適 の 区 分 | 一部適用 | 事業開始年月日 | 昭和50年6月28日 |
| 職 員 数 | 15人 | 市場種別区分 | 中央卸売市場 |
| 前 回 の 移 転 又 は 再 整 備 年 度 | 平成30年度～令和8年度 | 次回再整備予定年度 | 未定 |
| 広 域 化 実 施 状 況 | | | |
| 民間活用の状況 | ア 民間委託 | 活用していない | |
| | イ 指定管理者制度 | 活用していない | |
| | ウ PPP・PFI | 活用していない | |

(2) 使用料形態

| | | |
|-----------------------------|--|--|
| 売上高割使用料の 概 要 ・ 考 え 方 | ①概要 卸売業者等の月額売上高(税込)に対し1,000分の3を掛けた金額を売上高使用料としている。 ②考え方 農林水産省(当時:農林省)が昭和48年に提示した市場使用料の考え方に準じ算定。 | |
| 施設使用料の 概 要 ・ 考 え 方 | ①概要 償却費, 地代, 修繕費, 管理事務費(人件費・物件費), 損害保険料の合計(年額)を面積割(月額)により施設使用料を算定している。 ②考え方 農林水産省(当時:農林省)が昭和48年に提示した市場使用料の考え方に準じ算定。 | |
| 使用料改定年月日 (消費税のみの改定は含まない) | 改定なし | |

(3) 現在の経営状況

| 年間取扱高 (t) ※過去3年度分を記載 | 年度 | 野菜 | 果実 | 水産物 | 肉類・鳥類・卵類 | その他 | 合計 |
|---|--------|---------|--------|---------|----------|---------|---------|
| | 令和元年度 | 79,843 | 24,905 | 7,142 | 119 | 1,071 | 113,080 |
| | 平成30年度 | 80,229 | 25,951 | 7,720 | 126 | 1,118 | 115,144 |
| | 平成29年度 | 79,096 | 27,667 | 9,212 | 132 | 1,274 | 117,381 |
| 年間税込 売上高 (百万円) ※過去3年度分を記載 | 年度 | 野菜 | 果実 | 水産物 | 肉類・鳥類・卵類 | その他 | 合計 |
| | 令和元年度 | 16,933 | 10,193 | 8,561 | 29 | 255 | 35,971 |
| | 平成30年度 | 17,474 | 10,861 | 9,144 | 29 | 259 | 37,767 |
| | 平成29年度 | 18,086 | 11,189 | 9,824 | 35 | 288 | 39,422 |
| 経常収支比率 (又は収益的収支比率) ※過去3年度分を記載 | R1 | 101.53% | H30 | 100.33% | H29 | 100.27% | |
| 経費回収率 ※過去3年度分を記載 | R1 | 76.51% | H30 | 83.03% | H29 | 79.47% | |
| 他会計補助金比率 ※過去3年度分を記載 | R1 | 19.55% | H30 | 11.06% | H29 | 11.54% | |
| 有形固定資産原価償却率 ※過去3年度分を記載 | R1 | 78.74% | H30 | 78.00% | H29 | 76.33% | |
| 企業債残高対料金収入比率 ※過去3年度分を記載 | R1 | 8.07% | H30 | 20.53% | H29 | 34.03% | |
| 【上記の収益、資産等の状況等を踏まえた現在の経営状況の分析】 ・経常収支比率が年々増加傾向にあり、経営が安定している。 ・有形固定資産減価償却率が年々高くなっており、施設の老朽化が進んでいる。このため、施設等の更新予定であり資金の確保が課題である。 | | | | | | | |

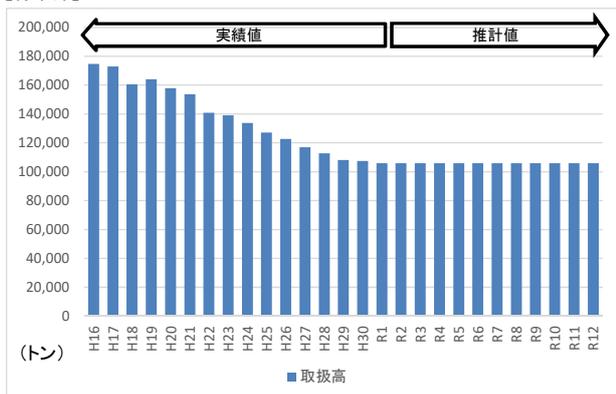
2. 将来の事業環境

(1) 取扱高(t)の見通し

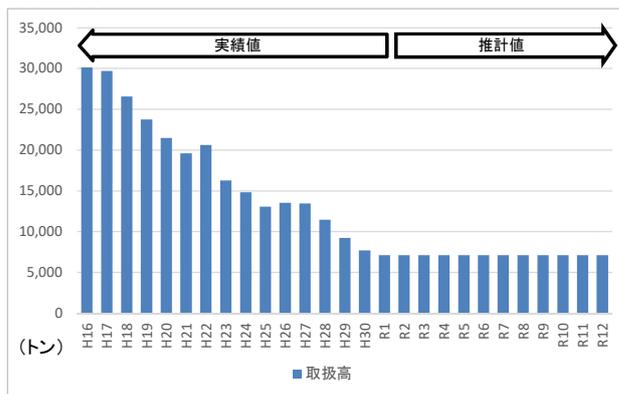
①青果部
令和元年度の取扱量は10万5,938トンで、10年前の平成21年と比べて31%減少しているが、新たな需要開拓や施設機能の向上等に取組むことにより現状維持を見込んでいる。

②水産物
令和元年度の取扱量は7,142トンで、10年前の平成21年と比べて64%減少しているが、新たな需要開拓や施設機能の向上等に取組むことにより現状維持を見込んでいる。

【青果部】



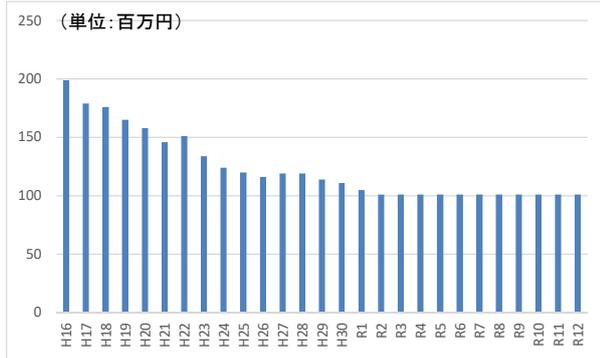
【水産物部】



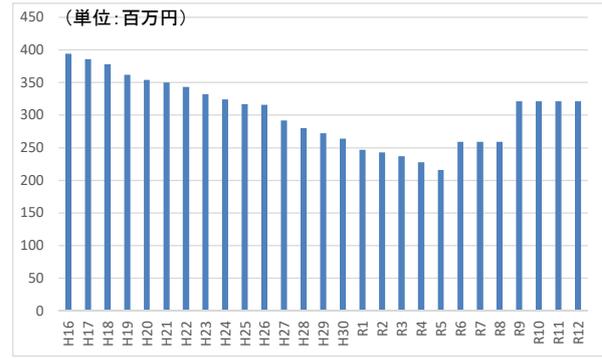
(2) 使用料収入の見通し

| |
|---|
| ①使用料収入の見通し |
| ア 売上高使用料 卸売業者の取扱高の減少に伴い、売上高使用料収入の年々減少しているが、卸売業者等の取扱高増へに向けた取組により、令和2年度決算見込み額を維持すると見込んでいる。 |
| イ 施設使用料 未使用施設が増加し施設使用料収入が減少傾向にあるが、施設稼働率の増に向けた取組により令和12年度には収入の増を見込んでいる。 民間活力を活用した市場用地の有効活用を推進することにより収入の増を見込んでいる。 |
| ②予測の方法・考え方 |
| ア 売上高使用料 卸売業者の取扱高は、令和2年度より維持すると見込んでいる。 |
| イ 施設使用料 既存使用施設については、令和2年度の施設使用料決算見込額に施設の稼働率の増加分を見込んでいる。 新たに土地使用料について土地の評価額×4/100と見込んでいる。 |

【売上高使用料収入の見通し】



【施設使用料収入の見通し】



(3) 施設の見通し

| | |
|--|--|
| ①施設等整備基本計画に基づく整備 「宇都宮市中央卸売市場施設等整備基本計画」に基づく市場再整備事業に着手しており、今後の主な施設の更新等スケジュールは以下の通りとなっている。 (整備期間:平成30年度～令和8年度) | |
| 【令和3年度】 | 【令和4年度】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・水産卸業者冷蔵施設新築工事 ・水産卸業者冷蔵施設機械設備更新工事(～4年度) ・青果卸業者冷蔵施設新築工事(～4年度) ・インフラ整備、外構工事等(～8年度) ・市場施設の解体等(～5年度、8年度) | <ul style="list-style-type: none"> ・青果卸業者荷捌き所新築工事 ・警備室、電気室新築工事 |
| ②賑わいエリアの整備 関連棟の移転と市場施設の適正規模の見直しや、より効率性の高い配置とすることにより関連棟を含む新たな賑わいを創出するエリアを民間活力を活用し整備する。 | |

(4) 組織の見通し

| |
|--|
| ①独立採算制を維持していくための組織 公営企業として健全な市場運営を推進するため、管理運営体制の効率化を図る。 |
| ②安全・安心を考慮した配置 施設の適切な維持管理や危機発生時における対応について、適正に対応できる配置に努める。 |
| ③計画的な定員配置 事業・事務等の進捗状況や事務量及び事務内容を十分に検討し、様々な課題に対し柔軟かつ機動的に対応できるよう計画的な配置を求める。 |

3. 経営の基本方針

| |
|---|
| (1)事業概要 本市場は、北関東唯一の中央卸売市場として、昭和50年6月に開場した。 宇都宮市はもとより栃木県内の消費者に対し、安全で安心な生鮮食料品をいかなる時でも安定して供給する役割を担っている。 令和2年6月には改正卸売市場法が施行となり、改めて「中央卸売市場」として国の認定を受けたところである。 |
| (2)経営理念 消費者に対し、安全で安心な生鮮食料品をいかなる時も安定して供給する生鮮食料品流通の中心的役割を担い、継続的に市場機能を発揮する。 |
| (3)将来像 |
| ①北関東の拠点市場 → 地理的なメリットを生かし、ワンストップ的な拠点市場を目指します。 |
| ②社会の要請に柔軟に対応できる市場 → 様々なニーズや社会状況の変化に柔軟に対応できる市場を目指します。 |
| (4)基本方針 |
| ①食の安定確保と物流体制の強化 → 将来にわたって生鮮食料品を安定的に供給するため新たな需要を開拓する。 安定した市場運営のため、市場内業者の経営基盤の強化と市場事業会計の健全化を推進する。 |
| ②食の安全・安心の確保 → 高い安全性を備え、安心できる生鮮食料品を提供するため、衛生・品質管理の徹底・高度化を推進する。 非常時においても生鮮食料品を安定供給するため、危機対応力を強化する。 持続可能な社会の実現に貢献するため、環境にやさしい市場づくりを推進する。 |
| ③市場と食に関する情報の発信機能の強化 → 豊かな食文化・健全な食生活を支えるため、食育の一環として魚食の普及や地産地消を推進する。 信頼感や親しみやすさを醸成するため、市場のイメージアップを推進する。 |

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画) : 別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

| | |
|-----|--|
| 目 標 | 市場施設の老朽化対策やコールドチェーン関連施設の整備事業により支出の増加が見込まれることから、コスト縮減が図られる事業手法等を積極的に採用するなど事業の継続に必要な投資を確保する。 |
|-----|--|

| | |
|---------------------|--|
| 【計画期間内に実施する主な投資の内容】 | |
| ア | 民間の資金・ノウハウ等の活用に関する事項 賑わいエリアを整備するにあたり民間活力を活用し、整備費用の縮減を図る。 |
| イ | 施設・設備の廃止・統合(ダウンサイジング)に関する事項 水産卸・水産仲卸業者冷蔵施設の更新について、施設の使用状況を踏まえ適正規模を算出しダウンサイジングを図る。 |
| ウ | 施設・設備の長寿命化等の投資の平準化に関する事項 市場施設の更新や老朽化対策など、更新需要と財政収支見通しを踏まえて計画的な更新に努める。 |

② 収支計画のうち財源についての説明

| | |
|-----|--|
| 目 標 | 財源は経営基盤の根幹をなすものであるため、新たな事業等を積極的に企画・実施することにより収益を確保する。 |
|-----|--|

| | |
|---------------------------|--|
| (1)財源の積算の考え方 | |
| ア | 使用料 売上高使用料及び施設使用料については、現行の使用料積算方法(1-(2))を基礎とし、2-②に記載した予測の方法を用いて積算している。 |
| イ | 企業債 損益勘定留保資金等の財源を考慮し積算している。 |
| ウ | 繰入金 国の繰出基準に基づき、適切に見積もった額を積算している。 |
| (2)収支計画策定にあたって反映した財源確保の取組 | |
| ア | 使用料に関する事項 卸売業者等の集荷力・販売力や経営基盤の強化を図り、取扱高を増加させ売上高使用料収入を確保する。 未使用の施設や土地の活用に向け、積極的に使用者の誘致等を行うことにより施設使用料収入を確保する。 |
| イ | 広告事業の推進 市場敷地内に有料の屋外広告等を募集するなど、財源の確保を検討する。 |

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

| | |
|----------------------------|--|
| (1)投資以外の経費の積算についての考え方 | |
| ア | 委託料 見積や実績額により見込む。 |
| イ | 修繕費 予防保全を行うものはその保全計画に基づいて更新需要を把握する。また、金額は見積や過年度の修繕実績を参考に積算する。 |
| ウ | 人件費 改定率、昇給率、昇格、新陳代謝等を考慮し積算する。 |
| (2)収支計画の策定にあたって反映した経費削減の取組 | |
| ア | 委託料 市場警備業務委託について人的警備から機械警備への変換や、防犯カメラ設置の増によりコスト縮減を図る。 |
| イ | 修繕費 施設の維持・修繕を計画的に実施することにより修繕費の平準化を図る。 |
| ウ | 人件費 再任用職員や会計年度任用職員の積極的な採用などにより人件費を削減する。 |

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 今後の投資についての考え方・検討状況

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 民間活用 | ・更なる民間資金・ノウハウ等の活用を検討していく。 |
| 投資の平準化 | ・更新需要や財政収支見通しを踏まえながら、事業費の平準化を検討していく。 |
| 広域化 | |
| その他の取組 | |

② 今後の財源についての考え方・検討状況

| | |
|------------------------|--|
| 使 用 料 | ・経営の安定を図るため、使用料あり方と算定基準について整理する。 ・収支試算上財源が不足する場合には、引続きコスト削減を実施することを前提として、料金改定の必要性を検討する。 |
| 企 業 債 | ・計画的な活用を図る。 |
| 繰 入 金 | |
| 資産の有効活用等による 収入増加の取組 | |
| そ の 他 の 取 組 | |

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

| | |
|-------------|--|
| 委 託 料 | ・民間委託については、市場機能の維持・向上や危機管理等のあり方を考慮し、課題等を踏まえながら民間委託の拡大について検討していく。 |
| 管 理 運 営 費 | |
| 職 員 給 与 費 | ・社会情勢との適合を基本的な考え方とし、経営状況等を踏まえながら引き続き給与の適正化に取組んでいく。 |
| そ の 他 の 取 組 | |

5. 公営企業として実施する必要性など

| | |
|-----------------------------|---|
| 事業の意義、提供する サービス自体の必要性 | 食のセーフティネットを堅持し、いかなる場合においても安全・安心な生鮮食料品を安定供給する必要がある。 |
| 公 営 企 業 として 実 施 する 必 要 性 | 多種、大量の生鮮食料品を安定流通させる公共性の高い重要な役割を担っていることに加え、生鮮食料品等の流通における公平かつ円滑な取引を確保するためには、公営企業として実施する必要がある。 |

6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

| | |
|-------------------------|--|
| 経営戦略の事後検証、 改定等に関する事項 | 社会経済情勢の変化や改正卸売市場法の施行5年後を目途に行われる改正法の見直しなどを考慮し、令和7年度に中間見直しを実施する。 |
|-------------------------|--|

中央卸売市場 収支計画

(令和3年度～令和12年度) ◆収益の収支<税抜> ◇資本的収支<税込>

(単位:百万円)

| 区分 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 | |
|--------------------|--------------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|
| | (決算) | (決算見込) | | | | | | | | | | | |
| 収益的収支 | 1 収入 (a) | 569 | 630 | 617 | 541 | 545 | 576 | 574 | 585 | 648 | 647 | 647 | 646 |
| | (1)使用料収入 | 352 | 344 | 338 | 329 | 317 | 360 | 360 | 360 | 422 | 422 | 422 | 422 |
| | うち売上高使用料 | 105 | 101 | 101 | 101 | 101 | 101 | 101 | 101 | 101 | 101 | 101 | 101 |
| | うち施設使用料 | 247 | 243 | 237 | 228 | 216 | 259 | 259 | 259 | 321 | 321 | 321 | 321 |
| | (2)一般会計負担金 | 110 | 179 | 176 | 121 | 138 | 124 | 124 | 135 | 135 | 134 | 134 | 133 |
| | (3)長期前受金戻入 | 30 | 30 | 27 | 15 | 15 | 15 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 |
| | (4)その他 | 78 | 78 | 76 | 76 | 76 | 76 | 76 | 76 | 77 | 77 | 77 | 77 |
| | 2 費用 (b) | 565 | 586 | 877 | 900 | 1,071 | 620 | 920 | 661 | 633 | 632 | 630 | 628 |
| | (1)人件費 | 146 | 164 | 184 | 139 | 139 | 139 | 139 | 139 | 119 | 119 | 119 | 119 |
| | (2)経費 | 318 | 330 | 296 | 248 | 292 | 248 | 248 | 282 | 272 | 272 | 272 | 272 |
| | (3)減価償却費 | 88 | 88 | 66 | 147 | 211 | 217 | 226 | 223 | 225 | 225 | 224 | 223 |
| | (4)支払利息 | 4 | 1 | 0 | 9 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 15 | 14 | 13 |
| | (5)その他 | 9 | 1 | 332 | 358 | 414 | 1 | 292 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 3 収支差引 (a)-(b) (c) | 4 | 45 | △ 261 | △ 359 | △ 526 | △ 44 | △ 345 | △ 76 | 15 | 15 | 17 | 18 | |
| 資本的収支 | 1 資本的収入 (d) | 49 | 19 | 1,803 | 1,340 | 0 | 0 | 0 | 0 | 57 | 101 | 101 | 102 |
| | (1)企業債 | 0 | 0 | 1,793 | 1,340 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (2)国庫補助金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (3)出資金 | 49 | 19 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 57 | 101 | 101 | 102 |
| | (4)その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 2 資本的支出 (e) | 180 | 67 | 1,992 | 1,515 | 224 | 470 | 26 | 73 | 115 | 202 | 203 | 204 |
| | (1)建設改良費 | 83 | 29 | 1,965 | 1,515 | 220 | 470 | 26 | 73 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (2)企業債償還金 | 97 | 38 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 115 | 202 | 203 | 204 |
| | (3)その他 | 0 | 0 | 7 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 3 収支差引 (d)-(e) (f) | △ 132 | △ 48 | △ 189 | △ 175 | △ 224 | △ 470 | △ 26 | △ 73 | △ 59 | △ 101 | △ 103 | △ 102 |
| 補填財源 | (1)損益勘定留保資金 | 123 | 44 | 6 | 36 | 204 | 427 | 24 | 67 | 59 | 101 | 103 | 102 |
| | (2)利益余剰金処分額 | 2 | 2 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (3)建設改良費の消費税 | 7 | 3 | 179 | 138 | 20 | 43 | 2 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 補填財源計 (g) | 132 | 48 | 189 | 175 | 224 | 470 | 26 | 73 | 59 | 101 | 103 | 102 |
| 補填財源不足額 (f)-(g) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 企業債残高 | 57 | 19 | 1,793 | 3,134 | 3,134 | 3,134 | 3,134 | 3,134 | 3,018 | 2,816 | 2,613 | 2,408 | |

○一般会計負担金

| | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 収益的収支分 | 110 | 179 | 176 | 121 | 138 | 124 | 124 | 135 | 135 | 134 | 134 | 133 |
| うち基準内繰入金 | 99 | 151 | 131 | 121 | 138 | 124 | 124 | 135 | 135 | 134 | 134 | 133 |
| うち基準外繰入金 | 11 | 28 | 45 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資本的収支分 | 49 | 19 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 57 | 101 | 101 | 102 |
| うち基準内繰入金 | 49 | 19 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 57 | 101 | 101 | 102 |
| うち基準外繰入金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 158 | 198 | 186 | 121 | 138 | 124 | 124 | 135 | 191 | 235 | 234 | 235 |